

物流・デリバリーに最適な地域

株式会社 小糸製作所 代表取締役社長

大嶽 昌宏さん

Masahiro Otake



静岡市にゆかりがあり、東京を拠点に内外で活躍する皆様に、東京から見た静岡市の良さと可能性、まちづくりの方向について、ご提案いただきます。

地産地消を強化

「静岡工場には毎週行っています。新幹線が（本社に近い）品川に停車するようになっ
て大変便利になりました」と大嶽さん。

小糸製作所の創業は1915年の小糸源六郎商店。「現在は90%以上が自動車用ランプ（照明器）の製造・販売に特化しています」。トヨタをはじめ、日産、ホンダ、GM、フォードなど国内外の主要メーカーと取引。自動車用照明器のグローバルシェアは

20%に及ぶ。2007年には世界で初めて自動車用のLEDヘッドランプを開発し、同年5月発売のトヨタレクサスLS600hに搭載された。

07年社長に就任。翌年のリーマンショックに続き、東日本大震災、中国の反日不買運動、1ドル80円を切る超円高と、次々に難題が降りかかったが、「固定費削減、筋肉質の会社構築に取り組み、信条の赤字は出さない、従業員の首は切らない、をなんとか守りました」。13年3月期は過去最高益、

トップシェアの意識

14年3月期も増益見通しだ。「昨年は社長になってから一番穏やかな年でしたね」。世界の自動車生産台数は8千万台超、人口の増加基調も続く。「今後も地産地消（現地生産、現地消費）を強化し、グローバルシェア拡大を目指したい」。

中学校まで静岡市で過ごし、高校から東京に移り住んだ。「気候だけでなく、人間も穏やかでいいが、ちょっと力強さを感じない。その辺が（東京に住む）静岡人として不満ですね」。

大嶽さんは、「美味しい海の幸、山の幸がいっぱいあるのに生かしていない。静岡ブランドが、静岡止まりになっている」と話す。県内には新幹線、2本の東名高速道路が走る。「物流的には、最高の地点。国内でこれほどデリバリーに適したエリアはない。産地直送なんか即座ですよ。そういう物流とか、デリバリーの妙というか、優位性をもっと生かすべきだ」と提案する。

「最近24時間営業の店も出て、商店街も変わってきたが、それでもまだ他より先んじよう、トップシェアを取ろうという意識が希薄に見える。老舗だって、積極的にチャレンジしてこそ、生き残れると思う」。妙に説得力を感じるのは、幾多の苦難を乗り越えてきたからだけではない。

（文：長田義明、写真提供：小糸製作所）



経歴

静岡市葵区生まれ。慶應義塾大学法学部卒。1969年、三菱自動車株式会社入社。77年、株式会社小糸製作所入社、取締役、常務取締役、専務取締役、副社長を経て、2007年、代表取締役社長に就任。66歳。

この間、経理本部長・国際本部長、総務部・調達部・原価管理部担当を歴任。

<http://www.koito.co.jp>